

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成29年4月28日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0871600185		
事業所名	ケアホーム夢くらぶ	ユニット名	1ユニット
所在地	〒309-1625 茨城県笠間市来栖2846-5		
自己評価作成日	平成28年11月20日	評価結果 市町村受理日	平成29年5月2日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=0871600185-00&PrefCd=08&VersionCd=022
-----------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成29年1月16日	評価機関 決 済 日	平成29年4月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>私共の施設では「長生きの基は食にあり」「元気の基は食にあり」をいつも心がけており、常に利用者様に季節の新鮮な食材を提供しようと毎日買い物をして魚、肉、野菜など取り入れています。良質なたんぱく質、ミネラルを多く含むバランスのいい食事を考えております。また間食にはふかしいも（じゃがいも、さつまいも、さといも）や、ヨーグルトなど提供しています。そして手作りの漬物なども提供しております。今年も11月10日笠間の菊まつりに利用者様を連れて行くことができました。「真田丸」にちなんだ菊人形を鑑賞してきました。皆笑顔で写真が撮れました。時には外食も楽しみの一つとしています。利用者様がいつまでも笑顔で過ごしていただけるように心がけています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>事業所は自然環境に恵まれた場所に立地しており、敷地にはたくさんの植木、周りには田んぼや畑があり、職員は利用者と一緒に野菜や果物の栽培・収穫を楽しんでいる。 経営者は調理師の免許を取得しており「利用者の食の楽しみ」を第一に考え、自家菜園で栽培した野菜等を献立に取り入れ季節感のある食事の提供を心掛けている。 施設長はじめ地域採用の職員が多いため、地域の人達とのネットワークが強く、日本舞踊やハンドマッサージ、歌等のボランティアを受け入れ交流している。 職員と利用者は、玄関のソファで日なたぼっこをしながら雑談したり、カラオケを楽しむ等、ゆったりと穏やかな雰囲気の中毎日過ごしている。</p>

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員が理念を確認できるように掲示をしたり、ミーティングの際に唱和を行って共有し実践につなげている。	事業所開設時に経営者、代表者、職員が立ち上げの際に利用者に配慮した理念を作成し、日頃のサービスに活かしている。 理念を玄関や事務室に掲示するとともに、職員会議時や2ヶ月に1度全員で唱和し、実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の小学校の行事に招待されて参加したり近隣の方を招いて防災訓練を行ったりと積極的に交流を心がけている。	自治会に加入し、地域の清掃活動に参加したり、代表者や施設長が地域の集まりに参加している。 毎年小学校の秋祭りに招待され、職員と利用者が歌や劇の鑑賞している。 傾聴や楽器演奏、踊り、訪問美容院などのボランティアの受け入れを行い、交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	市で行う認知症の講習会に参加して皆で共有している。また家族の方にも報告し皆で支援している。近隣の方にも理解してもらうように努める。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度家族や市の職員、民生委員等で話し合いの機会を作り、事業所の状況や報告、意見交換を行いサービス向上に生かしている。	2ヶ月に1回家族等の代表や市町村職員、民生委員、地域住民、代表者、管理者、職員が参加する運営推進会議を開催している。 事業所の取り組みや行事、利用者の状況報告、外部評価の結果などを報告し、話し合いを行っている。 家族からの職員の利用者に対する声掛けが大きいとの注意を受け、ミーティングで声のトーンを抑えるよう話し合い実践している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市職員と連携を取り、研修会などに積極的に参加したり、市が主催するグループホームの見学会の会場になるなど市と良好な関係を築いている。	介護相談員の受け入れや要介護更新申請時などに窓口を訪問し、事業所の実情等を説明し、助言を得たりしている。 笠間市介護支援専門員連絡協議会に加入しており、毎月勉強会に参加し、行政の職員と交流している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関チャイムを設置して利用者の外出を察知し、職員の目が、行き届かない時間帯に限り、利用者の安全の為に施錠している。契約書にも身体拘束をしないケアの同意書を組み入れている。	重要事項説明書に明示し、家族等からの同意を得ているが、職員の人員体制により、玄関を施錠したり、車いす利用者に転倒の危険性があるため抑制ベルトで固定している。 身体拘束に関して職員会議での話し合い、年1回の内部研修を実施しているが、マニュアルの作成や実践に反映するまでには至っていない。 同意書はあるが、経過観察記録等に拘束時間などの詳細を記録するまでには至っていない。	身体拘束に関するマニュアルを作成するとともに、抑制ベルトを使用した記録や代替方法の検討などを記録したり、経過観察記録や再検討記録を作成することが望まれる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員で見守り、声を掛け合っている。研修会にも積極的に参加し防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度については、研修会に積極的に参加し知識を得て行き必要とする利用者があっても、受け入れていくよう努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、十分な説明を行い、理解して契約いただけるように配慮している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関ホールには、苦情、意見箱を設置しており、要望を引き出す努力をすると共に、地域の方の意見等も反映し、質の向上に繋がるように話し合いを行っている。ご家族様に施設に対してのアンケートも不定期ではあるが行っている。	重要事項説明書に苦情相談受付窓口を明示するとともに、苦情相談受付窓口を掲示や玄関に意見箱を設置している。 事業所の運営に関し、家族等の面会時や請求書を郵送する際にアンケート用紙を同封し、意見聴取を行っている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング・カンファレンス等を行い職員の意見や提案を聞き、質の向上に役立てるように取り組んでいる。	日頃から話し易い雰囲気づくりをしたり、2ヶ月に1度の職員会議時に介護支援専門員が職員の意見を聴いている。 居室で食事をしていた利用者（座位が困難な方）を食堂で体を起こして食べてもらおうとの提案を受け、傾いてしまう側にクッションを入れたり車イスの肘掛にタオルを巻き姿勢の維持に努める工夫し、食堂で食べられるよう改善した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の努力に目を向け実績も組み合わせながら、処遇改善へ反映させる事でやる気につながるように努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の力量を把握し、段階に応じた研修、講習等に、積極的に参加してもらうよう工夫している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	地域等との交流の場には、積極的に参加し、つながりを大切にして、サービスの質を向上させる努力をしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時には、本人や家族から困っていること不安なこと等を聞き要望に耳を傾けながら本人の安心を確保するため努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者様本人に向き合い、本人の声にしっかり耳を傾け、安心して暮らせるように、その人らしい生活が送れるように支援していく。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	どのような事でも家族の声をしっかり聞き取り、思いを受け入れて、暮らせるようにその人らしい生活が送れるように支援していく。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様との関わりを持つ中で、一人一人の思いを理解共有し、その方の望む生活になるように関係を築いていくよう努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の絆を深める為に常に、家族の意見に耳を傾け、共に本人を支えていく関係づくりに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者さまが楽しみにしている年に1度の笠間の菊祭りを付き添って見学している。また施設の玄関にも毎年近隣の方が菊を提供してくださり鑑賞している。	入居時に本人、家族等からの聴き取り、日々の生活の中での会話や関わりなどから馴染みの人や場所などを把握している。 利用者への面会者にはお茶などでもてなしたり、馴染みの店での買い物、自宅への外出・外泊、家族等と外食や墓参りなど人や場所との関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性を考え日常生活のリクリエーション等は職員が常に見守り援助し、声掛けを心がけている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	気軽に相談できる関係を絶やさないように「夢くらぶ」通信を送付したりして努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人一人の言動、しぐさ、つぶやきから、利用者本位の支援ができるように努めている。	利用者の思いや意向は、申し送りノートや個人記録に記入し、職員会議等で周知している。意思表示が困難な利用者には、日々の生活の中で表情や仕草、態度、つぶやき等から把握できるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人一人に寄り添っていくために利用者様の家族に話を聞き、利用者様が楽しく暮らせるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の状態を見守り全職員で情報交換している。日々の一人一人の心身の状態を職員で共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンス、ミーティング、を行うと共にモニタリングを実施し、介護計画を作成している。利用者家族に説明して同意を得ている。	利用者や家族等の意向を踏まえ、担当職員が作成した介護計画案を基に、医療関係者の意見を参考に介護計画書を作成している。介護計画の作成は1年毎に行っており、短期目標を3ヶ月、長期目標を12ヶ月で見直しするとともに、利用者の状態に変化が生じた場合は、随時見直ししている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の記録を申し送りなどで把握して変化、つぶやきなど記録することで情報を共有し良いケアが行えるように努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	できるかぎり柔軟に臨機応変に対応しその人に合った支援をおこなっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者の体調、気持ちを考えながら地域の行事等に参加したりして、本人が心身共に楽しむことができるように支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の意見を聞きながら、かかりつけ医と連携をとりながら毎月受診に行っている。また協力医療機関の医師による訪問診療を受診することができ、利用者の健康管理を行っている。	事業所では、訪問看護の看護師が毎日訪問するとともに、協力医療機関の医師による訪問診療が週2回あり、利用者が安心して医療を受ける体制が整っている。 利用者が受診した際には、申し送りノートや個人記録・受診ノートに記載している。 家族等には、請求書送付時に同封する手紙や電話、来訪時に報告している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者、職員、施設には看護師がいないので訪問看護師と情報を共有し、適切な看護、処置が受けられるよう支援している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は介護サマリー等で情報交換を行い、また退院時は看護サマリーにより情報交換を行い医療機関との連携を図っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	協力医療機関と医療連携を取り交わし、終末期にむけての方針など家族の意向に添って行うよう取り決めている。また終末期になった方には家族の方と話し合い、延命治療を行うかを確認し、同意書を取り交わしている。	事業所では、利用者が重度化した場合や終末期の対応について、契約書や重要事項説明書に明示するとともに、契約時に説明し同意を得ている。看取り介護計画やマニュアルを作成するまでには至っていない。 事業所では、昨年利用者の看取りに取り組んでおり、その際にも、医師や家族等との繰り返しの話し合いや意思確認を行っている。 重度化や看取り介護に関するマニュアルの作成や職員研修を実施するまでには至っていない。	重度化や看取りに対する対応マニュアルの作成と職員の研修の実施を提案する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の体調の急変や事故発生時に、適切な対応ができるように、応急処置の技術などを訪問看護師から学んでいる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域との協力体制を築きながら年2回、防災訓練を近隣の方にも協力してもらい、消防署員の協力の元に行っている。スプリンクラーも設置している。	避難訓練は夜間想定を含め年2回実施しているが、訓練後の反省会等を実施するには至っていない。 災害に備えて米や飲料水、缶詰、カンパン等の食料品、おむつや毛布、簡易トイレ等の生活に必要な物品を準備している。	避難訓練で明らかになった課題について職員間で話し合い次回の訓練につながる取り組みを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様は人生の先輩であり私たちの将来の姿と考え、常に尊敬のこころを持ち対応している。また誇りやプライドを傷つけないように配慮している。	事業所では利用者の家族等から個人情報に関する同意を得るとともに、職員に内部研修を行い、利用者の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけを実践している。 書類の保管場所が複数カ所があり、新しい書類は事務室や談話室のケースに保管するとともに、古い書類は鍵のかかる書棚に保管している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に一人一人の思いに耳を傾け希望や思いが表わしてもらえるように心がけ利用者の気持ちに寄り添うように努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の能力やペースを重視し思いや希望に配慮しながら支援している。職員側の都合を優先するのではなくその人のペースを大切にする。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人一人の個性、希望に応じて家族の協力も得ながら支援している。また希望者は訪問美容室の方に定期的に散髪など行っている。			

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の状況に合わせた食事内容にしている。また季節の食材等も取り入れ目で楽しめるよう工夫している。旬の物、また祝い事などには寿司ごはんなど提供している。	代表者や調理師が利用者の好物や苦手な物を踏まえた献立を作成しており、ちらし寿司や刺し身等は利用者に喜ばれている。 利用者は、テーブル拭きや自家菜園で栽培した野菜の収穫など、出来ることを職員と一緒にしている。 年に2回家族等の協力を得て回転寿司やラーメン等の外食するとともに、季節の行事に合わせ、おせちや雛祭り、誕生会等の際に行事食を提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスには特に気を使いながら快適な生活が長く送れるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアには特に注意を払い、口腔状態に応じたケアに努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄のパターン習慣を生かしてトイレでの排泄に向けた支援している。2時間おきに排泄確認を行っている。	職員は排泄チェック表や個人記録から、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握するとともに、2時間おきにさりげない声かけ誘導している。 手摺を利用者が利用しやすいよう、高さを低く設置している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	季節の野菜、果物、魚等を献立に多く取り入れ、おやつにはヨーグルト、かんてんを使用する等、便秘による不穏を解消できるように努めている。管理者は常に配慮しながら食材を提供している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者の方は入浴を楽しみにしている為バイタルチェックを行い体調を管理しながら、決められた日に入浴できるように努めている。	入浴は基本的に週3回（月曜～土曜）午前中としている。 入浴を拒む利用者には、時間や職員を替えて声かけしたり、足浴・清拭対応などを行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人ひとりの生活習慣やそのときどきの状態に応じて適切な運動をして、安眠がとれる生活リズムを支援し、安心して眠れるように環境整備を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬手帳、受診報告書を記帳し、副作用が出ていないかなど常に利用者の体調を見ながら、また体調の変化に対応できるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人一人の出来ること、やりたいことを把握し能力にあったお手伝い、（洗濯たたみなど）をおねがいしている。できる喜びが味わえるよう工夫している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	1人ひとりのその日の希望に添って、戸外に出かけられる日は、家族の協力、また職員が同行できる日は外出支援を行っている。	天気の良い日は外気浴・散歩をして日頃から近隣住民と挨拶を交わしている。 外出に関する年間行事計画を立て、花見や菊祭り、紅葉見学などに行っている。 外出時は、車いすの利用者も一緒に外出できるよう、配慮している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が出来る方、できない方それぞれに合わせて支援している。金銭トラブルがおこらないように気を付けている。	/	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の希望に応じて職員が見守りの中、電話等ができるように配慮している。	/	
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関のスペースには観葉植物、季節の花など置いて広いスペースなのでソファを置き、暖かな日差しの中で利用者様がくつろげるように工夫されてます。また音楽が聴けるようにも工夫されています。	玄関にはソファ・テーブル・観葉植物を置き、廊下には手摺を設置するとともに、マッサージチェアなどを置いている。 居間兼食堂にはテレビ・ソファを設置するとともに、行事の写真・利用者の作品等を飾っている。 談話室には、レーザーカラオケやソファ、テーブルを設置し、利用者がカラオケ等を楽しむ空間を確保している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間として広い和室があり一人一人自由に過ごせるように工夫されています。足が伸ばせるようにも工夫されています。	/	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様が昔使っていたものを使用したりして居心地良く過ごせるように工夫されています。天窓があり、日光が差し込み明るくなっております。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレなど各場所に手すりが設置されており、自立歩行や見守りでの歩行訓練も行えるような工夫がされています。	/	

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが ○ 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ毎日のように ○ 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている ○ 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	1, ほぼ全ての職員が ○ 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が ○ 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 ケアホーム夢くらぶ

作成日 平成29年4月15日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	5	身体拘束に関するマニュアルを作成していない。 抑制ベルトを使用した記録がない。 代替方法の検討を記録する。	身体拘束に関するマニュアルを作成するとともに、抑制ベルト使用時を記録する。 また経過観察記録、再検討記録を作成する。	身体拘束のマニュアルを作成し、抑制ベルトをしないで代替措置として歩行リハビリなどをおこなったりと工夫を行った記録を残す。 経過観察記録も日時、時間なども記録する。	1年
2	12	重度化や看取りに対する対応マニュアルを作成していない。 職員の研修がなされていない。	看取りに関するマニュアルを作成するとともに、職員の研修を実施する。	利用者様が重度になった場合、看取りになった場合を想定して職員の研修を重ねて行く。	1年
3	13	避難訓練で明らかになった課題について話し合いがなされていない。	避難訓練を行った時の課題を職員間で話し合い、またその時次回の訓練に生かされるように工夫する。	避難訓練を行った後、反省会を行い、課題を抽出して次回の避難訓練につなげていく。	1年
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。